

8月27日(木) @Ntcc 祈祷会 原稿 能城一郎

タイトル：心を注ぎ出す

聖書箇所：詩編 62 篇 12 節

今日も皆さんとご一緒に聖書を学び、そして、お祈りが出来ることを感謝申し上げます。

今日のタイトルは、「心を注ぎ出す」と致しました。

聖書箇所は、詩篇 62 篇 8 節です。

最初に、詩篇 62 篇 8 節をお読みします。

【新改訳 2017】

詩 62:8 民よどんなときにも神に信頼せよ。

あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。

神はわれらの避け所である。セラ

皆さんは、「心を注ぎ出して」何かをされたことは、あるでしょうか。

8 節は、三つの詩から来ています。最初の「民よ どんなときにも神に信頼せよ。」を聴いて、「そうだ、そのとおり。アーメン！」と言える人は幸いです。しかし、「確かにそうだけど、信頼している。でも、今は辛い！ 悩みが抜けない！」と心の声が聞こえてくる人もいるかもしれません。毎月、「いのちのことば」というパンフレットを読んでいます。1年ほど前から、「信じても苦しい人へ」という連載が続いています。まさに、「どんなときにも神に信頼せよ。」と聞いて、「そうだ、そのとおり。アーメン！」と言えない人が増えているのかもしれない。その様な「信じても苦しい人」が、本来の信仰を取り戻すには、どのようにすればよいのでしょうか。

それが、二つ目の詩、「あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。」ということばです。「信じても苦しい人」が、神の前に、「心を注ぎ出し」、何らかのアクション、行動をするならば、何が生じるのでしょうか。

その答えは、三番目の詩、「神はわれらの避け所である。」にあります。「信じても苦しい人」が、「心を注ぎ出して神の前で無我夢中に何事かをするならば」、その結果、「神は、(確かに) わたしの避け所である」という、神に信頼する信仰を取り戻すことが出来るということです。そのことを、

詩篇 6 2 篇 8 節は描き出しています。もう一度、言います。「信じても苦しい人」が、「心を注ぎ出して神の前で無我夢中に何事かをするならば」、その結果、「神は、(確かに) わたしの避け所である」という、神に信頼する信仰を取り戻すことが出来るのです。

「心を注ぎ出す」その姿を一番よく表している聖書箇所を紹介します。サムエル記第 1 の 1 章 1 2 節から 1 8 節です。

【新改訳 2017】

I サム

1:12 ハンナが【主】の前で長く祈っている間、
エリは彼女の口もとをじっと見ていた。

1:13 ハンナは心で祈っていたので、
唇だけが動いて、声は聞こえなかった。
それでエリは彼女が酔っているのだと思った。

1:14 エリは彼女に言った。
「いつまで酔っているのか。酔いをさましなさい。」

1:15 ハンナは答えた。
「いいえ、祭司様。私は心に悩みのある女です。
ぶどう酒も、お酒も飲んでではありません。
私は【主】の前に心を注ぎ出していたのです。」

1:16 このはしためを、よこしまな女と思わないでください。
私は募る憂いと苛立ちのために、今まで祈っていたのです。」

1:17 エリは答えた。
「安心して行きなさい。
イスラエルの神が、
あなたの願ったその願いをかなえてくださるように。」

1:18 彼女は、「はしためが、あなたのご好意を受けられますように」と言った。
それから彼女は帰って食事をした。
その顔は、もはや以前のようなではなかった。

この箇所、注目したいのは、1 8 節の「その顔は、もはや以前のようなではなかった。」という、

「心を注ぎ出した祈りの結果」です。ハンナは、「悩み」、「募る憂い」、「苛立ち」の状態から抜け出せないでいました。しかし、心を注ぎ出した長時間の祈りが、ハンナの心を晴やかにしたのです。

ハンナの祈りでは、ハンナ自身の信仰が回復しています。エズラ記10章1節には、エズラの「長時間の心を注ぎ出した祈り」の姿が記されています。

【新改訳 2017】

Ezr 10:1 エズラが神の宮の前でひれ伏して、
涙ながらに祈り告白しているとき、
男や女や子どもの大会衆がイスラエルのうちから
彼のところに集まって来た。
民は涙を流して激しく泣いた。

「涙ながらに祈り告白」これは、イスラエルの人々の律法違反の罪の告白です。バビロン捕囚から帰還後、神殿が再建され、ようやく一安心した人々の気が緩み始めました。神の戒めを平気で破る人々が多くなりました。その状況を知って、律法学者のエズラが、涙ながらに、長時間の祈りの告白をし続けていました。すると、その結果、何が起きたのでしょうか。

それは、「民族的な悔い改め」です。「男や女や子どもの大会衆が、皆、涙を流して激しく泣いた。」と書かれています。

エズラの「心を注ぎ出す」祈りの特徴は、「告白」にあります。ハンナの場合は、黙して悶々とした祈りでした。しかし、エズラの場合は、声に出した「告白」です。ヘブライ語の「告白」¹の元来の意味は、「矢を放つ」ということです。矢は的に向けてしっかりと力強く放つものです。エズラの涙ながらの告白の祈りの姿が、人々に大きな影響を与えました。その結果として、「民族的な悔い改め」が起きたのです。

今日は、「心を注ぎ出す」というタイトルでお話をしました。今夜も、ご一緒に、心を注ぎ出して、ハンナのように、エズラのように、お祈りの時を持ってまいりましょう。

¹ אָרַף ヤーダー